

野菜畑作生産情報 第1号

平成28年4月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎ 小麦の生育は早まっている。適期の追肥で生育量を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は早まっている。適期追肥と春腐病等の防除を徹底しよう！

畑作物

1 根雪の状況

- (1) 黒石市の消雪日は平年より19日早い3月4日で、根雪期間は29日短い69日間であった。
- (2) 六戸町の消雪日は平年より28日早い2月14日で、根雪期間は31日短い49日間であった。

表-1 根雪の状況

場 所	年次	初日	終日	消雪日	根雪期間
農林総合研究所 (黒石市)	本年	12/26	3/3	3/4	69日
	(平年差)	(遅10日)	(早19日)	(早19日)	(短29日)
	平年	12/16	3/22	3/23	98日
	前年	12/2	3/27	3/28	116日
野菜研究所 (六戸町)	本年	12/27	2/13	2/14	49日
	(平年差)	(遅2日)	(早28日)	(早28日)	(短31日)
	平年	12/25	3/13	3/14	80日
	前年	1/2	3/22	3/23	52日

2 小 麦

(1) 生育状況 (4月11日現在)

- ア 草丈は、全般的に平年を上回っている。莖数は、ネバリゴシは黒石市で、キタカミコムギは黒石市とつがる市ともに下回っているが、その他は上回っている。
- イ 幼穂形成期は、平年よりネバリゴシで10~25日、キタカミコムギで18~22日早まっている。
- ウ 雪腐病は、ほとんど発生が見られない。うどんこ病は、ネバリゴシの一部のほ場で発生が見られる。

表－２ 小麦の越冬後の生育状況

(4月11日現在)

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	22.2	862	3/19	28.3	715	3/24
	平年差・比	(136%)	(74%)	(早25日)	(141%)	(67%)	(早22日)
	平年	16.3	1,160	4/13	20.1	1,075	4/15
野菜研究所 (六戸町)	本年	29.3	1,364	3/19			
	平年差・比	(135%)	(100%)	(早12日)			
	平年	21.7	1,367	3/31			
つがる市 (旧木造町)	本年	25.8	987	3/15	30.3	707	3/14
	平年差・比	(142%)	(116%)	(早10日)	(142%)	(80%)	(早18日)
	平年	18.2	852	3/25	21.3	885	4/1
十和田市	本年	24.9	1,889	3/18			
	平年差・比	(165%)	(209%)	(早16日)			
	平年	15.1	904	4/3			
つがる市 (旧木造町)	本年	25.1	786	3/8	23.6	685	3/9
	平年	18.2	852	3/25	21.3	885	4/1
	前年	25.1	786	3/8	23.6	685	3/9
十和田市	本年	24.9	1,889	3/18			
	平年差・比	(165%)	(209%)	(早16日)			
	平年	15.1	904	4/3			
十和田市	本年	24.3	1,276	3/15			
	平年	15.1	904	4/3			
	前年	24.3	1,276	3/15			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(旧木造町)、十和田市は生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去9か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H27年産(24年産(出芽不良)を除く)の7か年、つがる市(旧木造町)と十和田市の「ネバリゴシ」が過去14か年、つがる市(旧木造町)の「キタカミコムギ」が過去20か年の平均値。

(2) 今後の留意点

- ア 転換畑では、停滞水による湿害を防止するため、明きよを設置するなど排水に努める。
- イ 一穂粒数を確保しタンパク質含有量を高めるために2回目の追肥を実施する。追肥時期及び量は表－3を参考に、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。(ネバリゴシの追肥の判断基準は、平成19年度指導奨励事項・指導参考資料等の「小麦ネバリゴシのタンパク質含有量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる」を参照のこと。)
- ウ うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、出穂後はアミスター20フロアブルを使用しない(赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例あり)。
- エ 赤かび病の適期防除のため薬剤散布の準備をする。

表－3 追肥時期と追肥量

追肥時期	止葉抽出期(減数分裂期)(2回目)
追肥量	窒素成分で 2kg/10a

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

- ア 越冬後の生育は、消雪が早かったため進んでおり、県全域で草丈、葉数は平年を上回っている。
- イ りん片分化期は、平年より野菜研究所（六戸町）、七戸町で11日早く、田子町で9日早く到達しており、藤崎町でも早まると予想される。
- ウ 地域によりさび病の発生が見られている。

表－4 にんにくの生育状況（4月15日現在）

場 所	年次	植付期	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	りん片 分化期 (月日)	備 考
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	10/1	54.0	8.3	16.4	4/12	透明マルチ
	平年並	10/1	(130%)	(141%)	(126%)	11日早	
	平年	10/1	41.4	5.9	13.0	4/23	
	前年	10/1	50.0	7.5	15.5	4/13	
藤 崎 町 福 島 (旧常盤村)	本年 (平比)	9/17	26.1	4.8	13.7	未分化	無マルチ
	4日早	(129%)	(133%)	—	—	—	
	平年	9/21	20.2	3.6	—	4/30	
	前年	9/14	17.0	3.3	8.4	4/24	
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (平比)	9/25	40.9	5.4	16.5	4/14	グリーンマルチ
	9日早	(169%)	(135%)	(146%)	11日早		
	平年	10/4	24.2	4.0	11.3	4/25	
	前年	9/28	36.8	5.2	16.4	4/19	
田 子 町 日ノ沢	本年 (平比)	9/26	37.5	4.9	—	4/15	グリーンマルチ
	13日早	(167%)	(120%)	(—)	9日早		
	平年	10/9	22.5	4.1	—	4/24	
	前年	9/26	36.2	4.5	—	4/18	

- 注) ①平年：藤崎町は平成9年～27年の19か年の平均値。
七戸町は平成8年～27年（平成25年を除く）の19か年の平均値。
田子町は平成8年～27年の20か年の平均値。
- ②種子：藤崎町は福地ホワイト（15～20g）。
七戸町は白玉王（10～11g）
田子町は白玉王（10～12g）
- ③葉数：野菜研究所は抽出葉数。
藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

(2) 今後の留意点

- ア 排水が悪いほ場では、滞水しないように明きよを設置する。
- イ 風などでマルチが浮き上がったり、剥がれている箇所は早めに補修する。
- ウ 追肥体系の場合、2回目の追肥は、10a当たり窒素成分で5kgを目安に、りん片分化期等の生育状況を確認しながら適期に行う。

2回目の追肥時期：透明マルチ・・・りん片分化期後10日ごろ

黒マルチ・・・りん片分化期～りん片分化期後10日ごろ

エ 1株に複数萌芽した株は、株の分離を確認後、株元の土を掘り、生育の良い方を残すように押さえ、他を引き裂くようにして抜き取る。

ただし、採種する場合は抜取りを行わず、そのまま生育させる。

オ さび病、春腐病の早期発見、早期防除に努めるとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

2 ながいも

(1) 生育状況

春掘作業は、消雪が早かったため、順調に進んでいる。

(2) 今後の留意点

ア 掘取りは作業条件の良いほ場から順次進め、芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。

イ トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。

ウ 種いもは、栽培法に合わせて準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月上旬に植付けする。

表－5 ながいも栽培法別の種いもの種類と重さ

栽培法	植付時期	種いもの種類	頂芽	重さ(g)
早植栽培	4月下旬～5月上旬	1年子	有り	50～100
普通栽培	5月中旬～6月上旬	1、2年子	切除	100～150
	5月下旬～6月上旬	切りいも	切除	120～150

3 トンネルにんじん、だいこん

(1) 生育状況

トンネルにんじん、だいこんともに、は種作業は、消雪が早いことから平年より早まった。

だいこんは、発芽が良好で気温が高めに推移したことから、葉長、葉数とも平年を上回り、生育が早くなっている。

表－6 春だいこんの生育状況（4月11日現在）

場 所	年次	は種期	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年 (平成)	3/12	15.5	6.2	透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル
	平年	3/21	6.1	1.7	
	前年	3/15	12.9	4.7	

注) ①平年:平成18年～27年の過去10か年の平均値。

②品種:春の星

(2) 今後の留意点

好天時は換気し、生育ステージに合わせた適正な温度管理に努める。

4 トマト、メロン

(1) 生育状況

苗の生育は、は種後の好天により進んでいる。

(2) 今後の留意点

- ア 定植に向けて徐々に気温を下げて苗を管理し、順化する。
- イ 土壌水分が好適な時期に早めにマルチングを行って、地温の確保に努める。
- ウ 苗が老化しないように計画的にはほ場準備を進める。定植が遅れる場合は、苗が老化しないよう薄めた液肥を与えるなど適正管理に努める。
- エ 降霜が予想される時や低温時には、二重被覆や暖房器具等で保温に努める。

◎育苗中や定植間もない農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって

- 農薬は適正に使用しましょう。
 - 農薬の飛散を防止しましょう。
 - 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
 - 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
 - 農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
 - 農薬登録情報提供システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
-

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

- 例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。
体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。
- 1 高齢者の事故多発！農作業は、あせらず、急がず慎重に！！
 - 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
 - 3 機械点検時には、エンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
 - 4 高所作業の際には、周りの状況を確認し、身体の安全を保ちましょう！
-

連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線 5079
直通 017-734-9481
